

(別添資料1)

事業所名	ネオナート	支援プログラム（参考様式）	作成日	令和8年	3月	19日
法人（事業所）理念	誰もが住みよいまちづくり					
支援方針	1. ASDの理解から始める 2. 支援はアセスメントから 3. 個別化の視点 4. 実証された支援方法の使用 5. 自立/自律が目的 6. ご家族との協働					
営業時間	9時	10分から	17時	00分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	生活リズムや生活習慣の整理、衛生や感染予防に配慮し健康的な生活を支援します。こどもの特性や発達の状態を捉えながら心身の状態を確認し、小さなサインに気づいて対応していくことに留意します。排泄支援では、プライバシーを保護・尊重し特性や発達状態に合わせたトイレ誘導やトレーニングを行います。支援プログラムの具体例：食事、排泄、清潔、健康チェック、感染予防、散歩、簡単な調理等				
	運動・感覚	一人一人の特性や発達の状態に合わせた遊びを通じた運動機能の発達を促し、こどもの興味・関心・楽しみ・やってみよう思える気持ちを大切に支援します。視覚・聴覚・触覚・臭覚・固有覚・前庭覚等の保有する感覚を活用し発達を促す支援を行います。支援プログラムの具体例：制作、自由遊び、サーキット運動、感覚統合を取り入れた遊び、ウォーキング、ストレッチ等				
	認知・行動	こどもが意欲的に関われるよう遊びを通して、自分で始めて、自分で終わらせられる成功体験の積み重ねを目指します。また、他者からの働きかけに反応できる力を確実に賞賛していくことで、学業生活の基盤となる学習態勢づくりを目指します。一人一人の認知の特性を探り特性に合わせながら自発性・自主性の獲得に向けた環境づくりと働きかけをします。人、物、場所、時間等の概念形成を図り、周囲の環境に自ら気づき、自発的な行動を引き出せるような支援を提供していきます。支援プログラムの具体例：制作、タブレットを使用したあそび、自立課題への取り組み、エコノミートークン、感情コントロールの基礎づくり等				
	言語コミュニケーション	大人や同年代との関わりや交流を通して人と関わる楽しさを感じ、自分の表現方法で意思表出ができるよう支援します。自分の気持ちや意思が相手に伝わる成功体験をしっかりと積み重ねていきます。また、自分に合った手段で意思の伝達ができるような方法の習得を支援します。そして、幼児期において適切かつ他者に受け入れられやすいヘルプ（援助要求）方法の習得も学んでいきます。支援プログラムの具体例：コミュニケーション代替スキルの支援（PECS等）、疲れやイライラを発信できる習慣づくり等				
	人間関係社会性	お友だちやスタッフとの関わりの中で、人や環境に対する安心感・信頼感を育みます。安心できる居場所で自己肯定感を育み安定した情緒の下で活動ができるよう支援します。他者との関わりを通じて自分の気持ちに気づき、折り合いをつける力や他者を思いやる気持ちを大切に育みます。支援プログラムの具体例：SST、リラクゼーション、ルールのある小集団あそび、季節の行事、買い物体験				
家族支援	日常の心配や困りごとに対して相談援助を行い、必要な情報を提供します。こどもの発達状況を共有し、子育ての孤立感を感じることがないよう支援します。保護者同士の交流、子育てに役立つ情報が得られる場（親の会の講座等）に直接・間接的に協力しています。また、保護者の就労や保護者自身が自分の時間をもつこと、きょうだいへの時間も大切にできるように、土・祝日のサービス提供を工夫しています。	移行支援	ライフステージの切り替えを見据え必要な準備を本人・保護者・関係する人たち協力して取り組んでいきます。移行する前後の事業所等と連携し、支援内容や取組、本人や家族の意向、支援の中で大切にしたいこと等を引き継ぎます。地域生活を安心して暮らしていける基盤にアプローチしていきます。			
地域支援・地域連携	健診事業及び早期療育教室の心理相談員の派遣を通して、地域の母子保健事業へ積極的に協力していきます。また、保育・教育領域と密に連携して本人と家族が安心して地域で暮らしていけるように日常の情報交換を通して必要な支援のありかたを考えます。地域の自立支援協議会からの情報収集と連携、近接する地域の課題解決にも目を向けていきます。	職員の質の向上	月2回以上の社内研修において、感染予防・防災・防犯・虐待防止・事故防止等のみならず、現場実践において意味のある事例研究やテーマ設定を前提に進めています。また、現場での直接助言・指導と自己成長に必要な目標管理制度（MBO）も連動させて職員の資質向上を図っています。			
主な行事等	月案ベースの全員参加型の行事ではなく、個別支援計画に沿った余暇活動支援を土・祝日を利用して実施しています。また、個別と小グループ設定したうえで、本人の参加・不参加を含めた意思決定を尊重したうえで、将来の地域生活に役立つことを見据えながら地域資源を利用した支援内容も実施しています。					